

# 2020年第14期『南京国際平和通信』

## ガイド

- 8・15国際平和「オンライン集会」ならびに  
記念館開館35周年回顧展が中国南京にて開催
- 南京大虐殺の生存者である馬鴻祥氏が逝去

2020年9月 第14期

## 編者による言葉

親愛なる読者へ：

1945年8月15日、日本は無条件降伏を公表しました。1985年8月15日、侵華日軍南京大屠殺遇難同胞記念館がオープンしました。

今年のこの日、記念館は国際平和「オンライン集会」を催し、記念館開館35周年の回顧展示会も開催されました。

今期の報道をご覧ください。

## ヘッドラインニュース

8・15 国際平和「オンライン集会」が中国南京にて開催  
記念館 35 周年の回顧展示会が開幕

8月15日午前9時、記念館にて、「抗日戦争勝利75周年記念・国際平和集会」が開催された。3番展示館にて、「声を合わせて前進しよう——侵華日軍南京大屠殺遇難同胞記念館35周年回顧展示会」が開かれた。

旧来の8月15日では、25万人以上の中国難民を保護した国際友人の後裔や、日本の友好チームなどが記念館を訪れ、平和集会を行うこともあったが、今年はコロナウイルスのため、各界の方々が会場に赴くことができなかった。そのため、彼らの一部は「オンライン集会」により、歴史を振り返り、南京大屠殺の犠牲者を悼み、平和を大切にする心情を表した。

回顧展示会の開幕式にて、南京大屠殺史の研究専門家、南京大屠殺生存者の代表、記念館の設計と建設の代表、記念館の元指導者や元職員の代表など35人が、一人当たり1回、平和の鐘を鳴らし、記念館が歩んだ35回の春秋を象徴した。



記念館館長の張建軍氏（右）が南京大学名誉教授の張憲文氏（左）に、記念館 35 周年回顧展示会の内容を紹介する



会場に来た南京大虐殺の生存者である馬庭宝氏は、南京大虐殺の歴史を否定している日本の右翼勢力が、歴史の事実を直視し、記念館を見学に来てほしいと願う



南京大虐殺の生存者である葛道栄氏は、民衆が記念館を訪れ、歴史と平和の教育を受けることを望んでいる

## 南京大虐殺の生存者である馬鴻祥氏が逝去した

南京大虐殺の生存者である馬鴻祥氏は、2020年8月19日午前、99歳で逝去した。彼は今年亡くなった4人目の生存者である。現在、南京侵華日軍被害者援助協会に登録した生存者は73人しかいない。



## 花言葉の展示会で平和を伝えていく

8月15日午前10時、記念館は、「南京大虐殺史実展示会」の最後の展示館にある平和伝言壁の前にて、「第三期の花言葉展示教育」活動を開催した。

現場の花の展示は、主にイバラを主体として創作されたものである。イバラの中には、1945年9月9日に日本が署名した『降伏文書』の複製品が、静かに置かれている。これにより、中国人民の14年間の悪戦苦闘が象徴されている。たとえばらの道であっても、中国人民が最後の勝利を得たのだ。

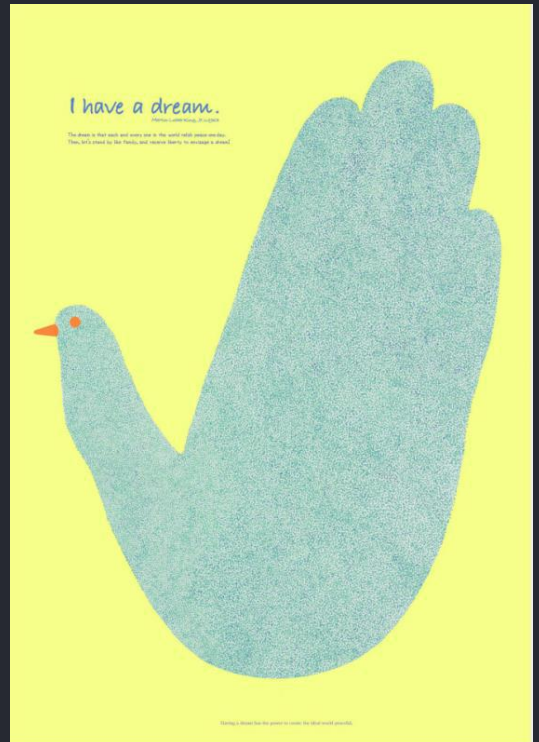
活動現場では、南京大虐殺史の研究専門家である各学者、中国人民解放軍陸軍工程大学の若手士官3人、南京市小学生の代表、記念館館長の張建軍氏、副館長の凌曦氏、時鵬程氏、及び紫金草雷鋒小隊のボランティアの各代表などが、順次「花言葉」の作品に平和を象徴するひな菊を添えた。





国際的有名人の作品が集められ、国際平和ポスター全国巡回  
展示会が上海にて開幕

8月13日は、「八・一三事変」（第二次上海事変）83周年の記念日である。午前9時30分、侵華日軍南京大屠殺遇難同胞記念館と、南京芸術学院が共同で主催した、「平和と都市——国際平和ポスター全国巡回展示会」の全国初となる開幕式が、上海の龍華烈士記念館にて行われた。今回、巡回に入選した48枚の優秀なポスター作品は全部、2019年に記念館で開催された、南京国際平和ポスタービエンナーレの逸品の中から選出された作品である。特に今回の展覧会には、グンター・ランボウ（Gunter Rambow）氏（ドイツ）、靳埭強氏（中国香港）、フオンス・ヒックマン（Fons Hickmann）氏（ドイツ）、カリ・ピッポ（Kari Piippo）氏（フィンランド）、キース・ゴダール（Keith Godard）氏（米国）など、国際的な名声を持つグラフィックデザイナーによる9つの平和をテーマとするポスター作品が出展され、2ヶ月間展示されている。







彼らは 13 ヶ国の外国人士官であり、  
更に平和を伝播する使者である

8月15日、ジンバブエ、マリ、カザフスタン、ミャンマー、ギニア、コンゴ、ガボンなど、13 ヶ国の外国人士官の各代表が記念館を訪れ、紫金草国際平和学校の交流活動に列席した。彼らの平均年齢は 20 歳である。

午前 8 時、12 人の外国人士官の代表が、記念館の公祭広場にて、平和の鐘を 13 回鳴らすことを通し、12 月 13 日を銘記することを寓意している。その後、「南京大虐殺史実展示会」と「三つの必勝」という展示区を見学し、犠牲者に菊をささげた。

また、各外国人士官は、南京大虐殺の生存者である石秀英氏の話の聴き、平和の花である紫金草を作った。彼らは、「軍人は民衆よりも、平和の守護者と伝播者になるべきだ」と語った。



## 温かい思いやり

### 世界「慰安婦」記念日・銘記

8月14日は、世界「慰安婦」記念日である。戦争中に日本軍に迫害された女性をしのぶために、第二期の「花言葉」展示教育活動が、南京利濟巷慰安所の旧跡にて行われた。

今年、記念館のスタッフとボランティアは、中国の広西省、山西省、江西省、海南省や湖南省の五つの省に赴き、日本軍の「慰安婦」制度の被害者十数人と子孫一人をお見舞いに訪れた。記念館側が全国各地を訪れ、「慰安婦」制度の被害者を慰問するのは5年目である。

#815 平和のために発声しよう #平和「オンライン集会」  
の短い動画がインターネットで人気話題となった

今年の8月15日、日本の友人で、神戸南京心連心会の団長である宮内陽子氏、飛田雄一氏、大和泰彦氏、岡内克江氏、国際友人のジョン・マギー氏の子孫であるクリス・マギー氏、当時南京に滞在していた、鼓楼病院の外科医であるリチャード・ブレディー氏の子孫のミーガン・ブレディー氏、中国の青年劉鎮源氏、陳喜悦氏、記念館側の各代表など世界中の平和愛好家が、「オンライン集会」により、南京大虐殺の忘れられない記憶を銘記し、抗日戦争で命を失った同胞をしのび、平和を大切にすることを表した。

不完全な統計によると、8月15日の21時30分までに、この話題は、「ウェイボー」ブログの閲読量で1747万人を超え、動画の視聴量は260万人を上回っていた。「ウェイボー」の話題ではランキングのトップ3に上り、話題の閲読量は1969.7万人を超えていた。同日、記念館は、「政務ウェイボー文化ランキング」の第1位に躍り出ている、ネットで中国の36ヶ所の博物館と交流をした。あるネット民が、「毎日の平和は容易なことではない。歴史を覚えて、平和を守る決意を固めた。」とコメントした。